

【工夫】誰でも参加できる親睦行事を開催し、賛同者で町内会を設立

平成27, 28年度の「地域コミュニティ活性化に向けた地域活動事業助成金」を申請し、有志メンバーが集まりマンション町内会を設立した事例です。

◇「エレベーターを待たない?!」

町内会設立に尽力されたのは、地域で市民活動も熱心に行われているFさん。ご自身の活動を広める一方、お住まいのマンションでは町内会がないことを危惧されていました。平成15年に新築入居した時は、「町内会に入らなくても良いこと」が売りのマンション。居住者同士、あいさつしない、エレベーターを待たない、という関係だったそうです。

◇「子供の未来のために」

そんなマンションづきあいに危機感を持たれたFさん。平成16年に輪番で管理組合理事長になり、翌年、理解を示してくれた次の理事長と一緒に「町内会作りませんか？」のチラシを配布しました。Fさんのすべての活動の動機は「子どもにどんな未来を残すか？」だそうです。「私学に通う子どもも多く、通勤通学の立地で駅近のこのマンションを選んだ世帯が多かった。あいさつしない環境は子どもの未来のために良くないのではないか。」と、交流の機会を持つことから始めます。

◇「地縁の矢面に立つ」

その後、住民有志で立ち上げた「和（なごみ）の会」で、交流のための「防災訓練」「七夕会」「クリスマス会」を実施。賛同者が少なくとも「ひとりでもやっぴいこう」と覚悟し、交流の場を続けました。交流が苦手な方にも参加していただけるよう、様々な工夫で参加の入り口を用意し、一部の人でやっているという不信感につながらないように配慮されたとか。約8年後、ひとりの住民から「いつも熱心にしていただきありがとうございます。私にも何かできることはありませんか？」と声がかかったことをきっかけにして、賛同する住民8人が集まり、平成27年に町内会立上準備会を結成、平成29年に町内会設立に至りました。

「いまや、エレベーターを待つのが普通になった」とFさん。集会所の掲示を見てファミリー世帯が引越してこられたこともあるそうです。ただ、様々な市民活動に関わってきたFさんは、その経験の中でも「町内会設立が一番大変だった」とおっしゃいます。「地縁の矢面に立つ覚悟がある」との言葉に、気持ちよく暮らせるまちを目指し一肌脱がれた責任感を感じました。



【マンション町内会】下京区。約70世帯。うち、加入世帯約30世帯。入りたい人が入る、というスタンスで親睦行事などを行っている。町内会費は行事のときに案内し、強制ではない。住民交流を始めてから町内会設立まで約10年。学区との関係づくりも少しずつ行っている。